

創立72周年
令和4年度 3月号



咲かせよう大正の花

つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



交流から生まれるもの

園長 北村 恵

陽ざしの暖かさに春を感じる日が多くなりました。今年度の登園日数も残り13日となり、進級・入学を目前にして、各学年の子供たちの成長が頼もしく感じられる日々です。

先月は、小学生との交流も含めて、3年ぶりの異年齢交流がたくさんできました。3年間の幼稚園生活の集大成ともいえるぞう組の遊園地ごっこに、うさぎ・ぱんだ・プレリす組がお客さんとして招待されました。遊園地を運営するぞう組はさすがです。年齢によって理解できる言葉が違うので、その子に合わせて乗り方を説明したりチケットをもらったりしていました。ぞう組が知恵と力を出し合い協力して作った乗り物を見て、保護者の方からは「すごいですね、5歳になると、自分たちでここまでできるようになるのですね。」という、驚きの感想もいただきました。部屋に戻ったうさぎ組の子供が、さっそく自分なりの遊園地を作ってぞう組を招待する姿も見られました。

4歳児と4年生との交流は、来年度に向けて初顔合わせとなり、4年1組・2組、それぞれとダンスや鬼ごっこをしました。最初の交流では、緊張してこわばった表情だった子供も、2回目には笑顔が出るようになり、一緒に遊んだお姉さんの名前を嬉しそうに教えてくれました。鬼ごっこで、ぱんだ組が4年生を挟み撃ちにして、4年生が本気で校庭を逃げ回る姿がほほえましかったです。

5歳児は1年生との交流で、5名ずつ3クラスに分かれて学級に入り、短く区切りながら、朝の時間、1時間目国語、休み時間のトイレ休憩、2時間目算数の小学校模擬体験をしました。ぞう組一人に二人の1年生が付いて、ランドセルや教科書、筆箱などを貸してもらい、使い方やしまい方も教えてもらいました。プリントに字や数字を書くときには、できると「すご〜い」とほめてもらい、安心して机に向かっていました。保育室に戻ってくると学校給食が運ばれ、栄養士の先生に教えてもらいながら、一人一人トレーにカレーや牛乳を載せてもらい自席まで運ぶことができました。いつも残すことが多い子供もこの日は沢山食べる様子が見られました。優しい1年生に励まされ、美味しい給食をいただき、小学校への希望が大きく膨らんだ1日でした。

後日、担任の先生から「幼稚園の子供たちがすごくしっかりしていてびっくりした。1年生にとっても、もう一度自分たちの姿を見直す、いい機会になった」というお話を聞き、交流の大切さを再確認できました。異年齢交流を通して、自分より年上の人たちと接することで、憧れの気持ちをもったり、自分もこうなりたいという目標をもったりします。自分より下の学年の子供たちと接する中では、可愛い、助けてあげよう、自分が頑張らなきゃ、などの優しきや自覚が育ちます。3月は誕生会やお別れ会、修了式など、ぞう組からぱんだ組へのバトンが渡される機会がたくさんありますが、ぞう組の姿を目標に頑張るぱんだ組の姿が見られることと期待しています。

最後になりましたが、今年度も教育活動へのご理解ご協力、ありがとうございました。皆様のおかげで無事に1年が過ぎましたことを心より感謝申し上げます。